

## 大分県

## P R E S S R E L E A S E

## 腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生について

## 1 概要

平成22年10月2日（土）宇佐市内に在住する児童（男児）について腸管出血性大腸菌（O157）感染症と診断された旨、医療機関から北部保健所に届出があった。

## 2 患者及び経過等

患者：宇佐市内在住の児童

症状：下痢、腹痛、発熱

〈経過〉

9月22日（水）下痢、腹痛症状出現

9月23日（木）発熱症状出現

9月24日（金）宇佐市内の医療機関を受診

9月28日（火）一旦回復後、再度症状が出現したため再受診

10月2日（土）28日の便検査により腸管出血性大腸菌（O157）感染症の診断

現在症状は既に回復している

## 3 保健所の主な対応

北部保健所は、家族に対して健康調査及び検便を行うとともに、感染源の調査を行っている。

## 4 予防方法及び発生動向

腸管出血性大腸菌感染症は、便を介して人から人に感染したり、食品を不衛生に取り扱ったために、食品を介して感染が広がる場合があります。

例年、夏場に腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加し、中には食事が原因と考えられる事例も発生しますので、感染を防ぐため以下のことに気をつけましょう。

①手をよく洗いましょう

・調理をする前（菌を食材や調理器具に付けないため）

・食肉をさわった後や生で食べる野菜をさわる前

・トイレの後（健康な人の便に菌が潜んでいることもあります）

②調理した食品は、速やかに食べましょう

③十分に加熱しましょう

・食肉やレバー等は十分に加熱してください

（中心温度は75℃以上・1分以上で菌は死滅します）

・焼き肉などの際は、生肉を扱うはしと食べるはしを別々にしましょう

④気になる症状があるときは、早めに医師の診断を受けましょう

・初期症状は「腹痛」、「下痢」等の消化器症状で、「血便」を呈することもあります

## 〈大分県における腸管出血性大腸菌感染症届出者数〉

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年 (10月4日現在)
O157	17	24	30	61	14
O121	-	3	-	32	1
その他	17	42	4	17	9
計	34	69	34	110	24

\*今回届出分  
を含む

健康対策課 健康危機管理班  
【電話】097-506-2673  
(担当：定行)